二編

丈婦園

江戸繁昌行

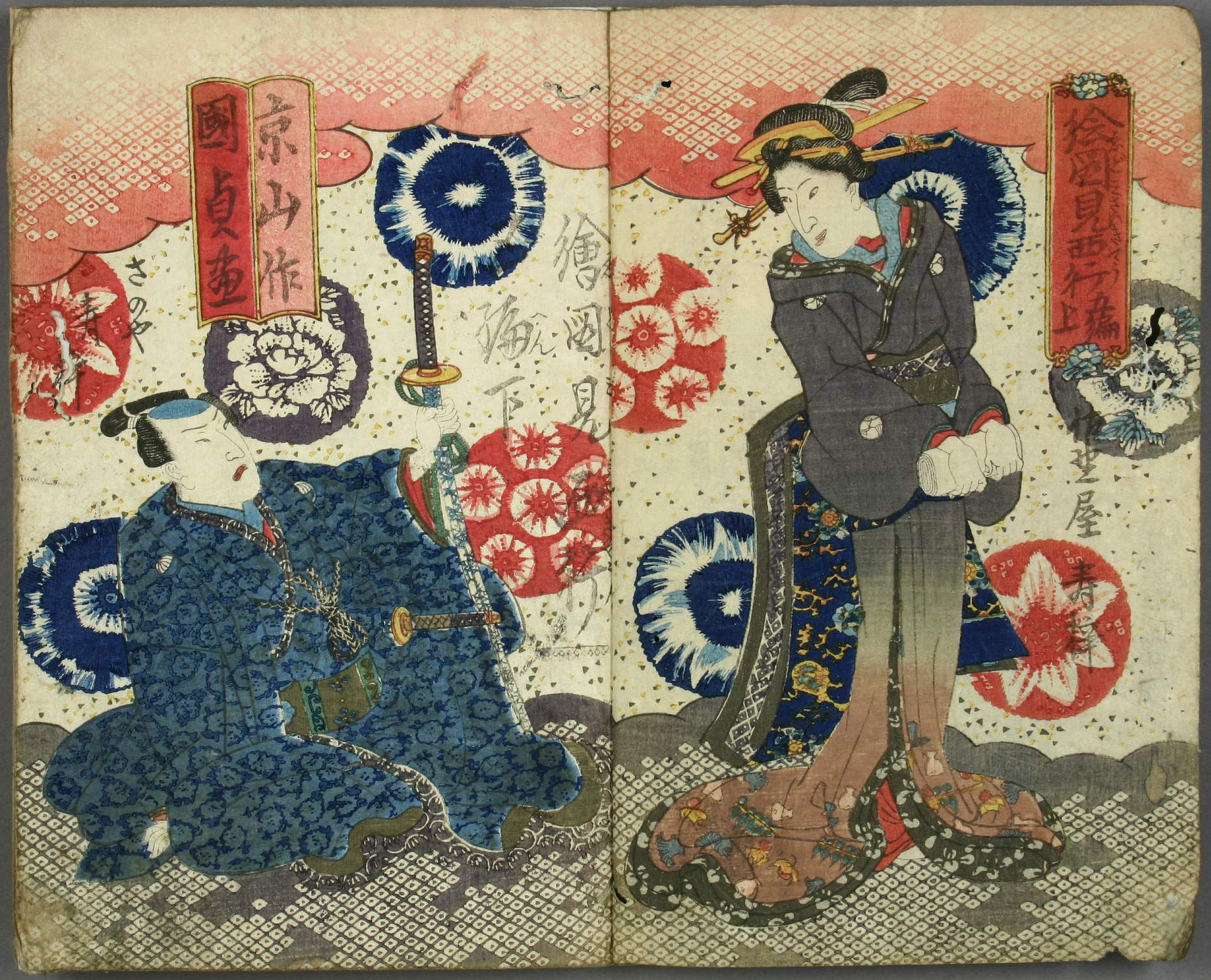
桜の瀬

喜鶴堂版

上

古文

ヘ3
3051
3


絵図見西行編上
作芝屋
京山作
國貞画
さのや
徳岡見
猫下

へ13
3051
3
特

画組ハ國貞似ト新一篇ノ趣向ヲ
居ノ心トモ祈ノ皆様ノ御評判ヲ
玉ヘ本屋春 賣リ作ヲ賣ルハ名ヲ
ヲシ賣ガ餡ノ華先甘口ニ奥ニ童ニ児ニ文
盲不学兼ー知ノ上ヘ莫ナカレ笑フ不レ残ル
俗ノ詞ト書成ナス鳴ニ絵ヲ魚ニ甚ダ如ト屁ノ姑録ノ敵ニ
敘言之名代ト
山東菴

繪図見西行五編 天保十壬寅新板 同子春脱稿 丑冬發梓 喜鶴堂刊行

琴

○井の熊の後家菊壽院

○一子豆丸

棋

○小つゝのゝ女郎とのゝ

書

○けいせいぐんぞの遊女 小露

○船川檜吉

画

○えろ絵の次

○井さゝ五郎

絵図見西行五編上冊
四へんよりつゞきの文
第一辻だちの場
連
大當
大山神酒構
仙女香 坂本氏
(二)
(三)

小つる
(一)
(四)

小西

五六
小つぼ

五七
なりぞこ
食べる
つぎへ

谷だて

お谷

三吉六

▲このむ由来ふたん気る気が五六合さるならハ
これドや●たちのおりぎ多くやらく●まづ
ごぎるの八のひろ手ありらくさあへのうを
つりうありやてさるまのハま志よ
●そとへうんをつけさる志をれ
●なるとぐうてんゐるうりの気べ
だいハ五石とござ…そるるでまぐ
だうてまうのきてらめくまるなど
おん六ハひとよけてがぶく
のにちやこんざけ
だいハふの初名●あゝ
これハーゆものにて
くぶさされや●いや
たまうぬ父よハ酒
ドやとつけてにゐ
えいのおやりのなや
めんやうろうまたやらが
●ゆきかハあのこなそ
だいハ気まちより
●どりやくるーいろ人合
のませてくぞくーや
●やらくそんなうつとりやア●そさき
でんあひのおで おや気ハあくがらぶの
お谷とハよと志のぶりの名生るれハ赤松の
ざんへう山石くら さまおのんが おりひのの気ま
ざくとハうけるうりこのおどより如の田の
志そくが社の花小一味るーよりくあつむる

お谷

㊁一まうのめバ冬えん去下まるなり
そくざのこうのうあり大人小児とうの疣人
用て新令まるの良薬なり●十二味
くすりありひこ手まるあるうふん一包
百二十二せん并一りうと志ろく
きみをとまつふまる妙なり
いろ不どのあれ志ろう申そも
かぶのつや虫のどうし
●女ちやうと薬
男大おん安く
女ハ五十以上
うりとも
月やく
アるる
うちれ
すんうむ

男ハ六十以上
るぬ安ゆそ
る妙ゑの
たのしまけりき人のごとく
まとりも身ふさるるなーその妙用て
志るべし●大極上々吉おしろい白牡丹
一包百廿四せんうまけ志きふつける
おしろいなり●むくぬ紀えのおしろいけしやう
りう一包五十六せんまえのつまおあせさせ
くんてもまなけるなるべし
●初音丸一包六十四せんと京の
よくするぬ妙なり又と京の
かるてるなるーござをつかふ人

第三 若生六の口上

ぐんとゆう金さのせん
ちらすとつてこさのふ
れておやを川へけそく
まずめ名若やさ
ごろ水のうまとおんさ目ふ
わびハあるまれがらん
ぐ目のいとぐるまにの
そうわかせうけもこれを
たたえるでそうどやうえ
●やてにいちとおん六が
きうてそむやでもえそう
てうでそうひのけ●ちよと
ざのはゐるとぶとわとされ
そぶくらーむおん六を
くるまざていまの目ふ
うけそゆさくーらひ
くびまうけくるかのござのふ
ところとまるへやのまくさにと
あらそかひのをさうてうで
まうーときれでくふおんおん六ハ
うらかどにかやとおけるとさの
ぬすハ人五六人●おうきらうか
●どりやそこめをさせ

江戸京大坂 京でんさせ●さくら丸
一包一匁五分 第一きこんの薬 めのちやうを
よくし目のちからをつよくしおんをます ①

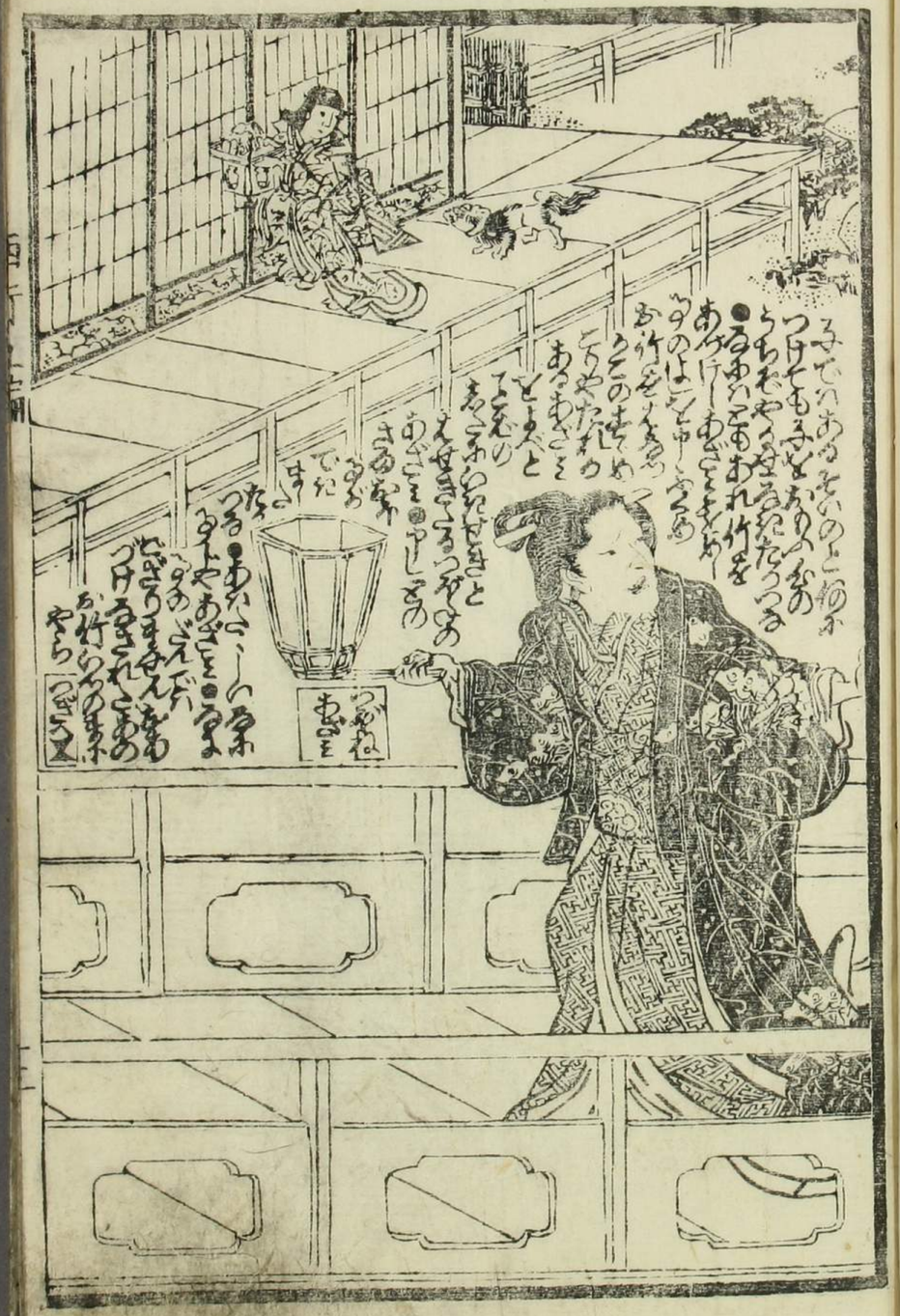
本文
かならず用ふべし
とくうまくろあやなもち 佐々木たろうのひと
うまえおくの
女中ぢうちよりてさまぐく
のそうのうう
●これせきや
らつぞや
おくさまが

つぎへ

京山作
國貞画

絵図見西行五編下巻

上ノ巻つづき



かつらのまえ
お竹

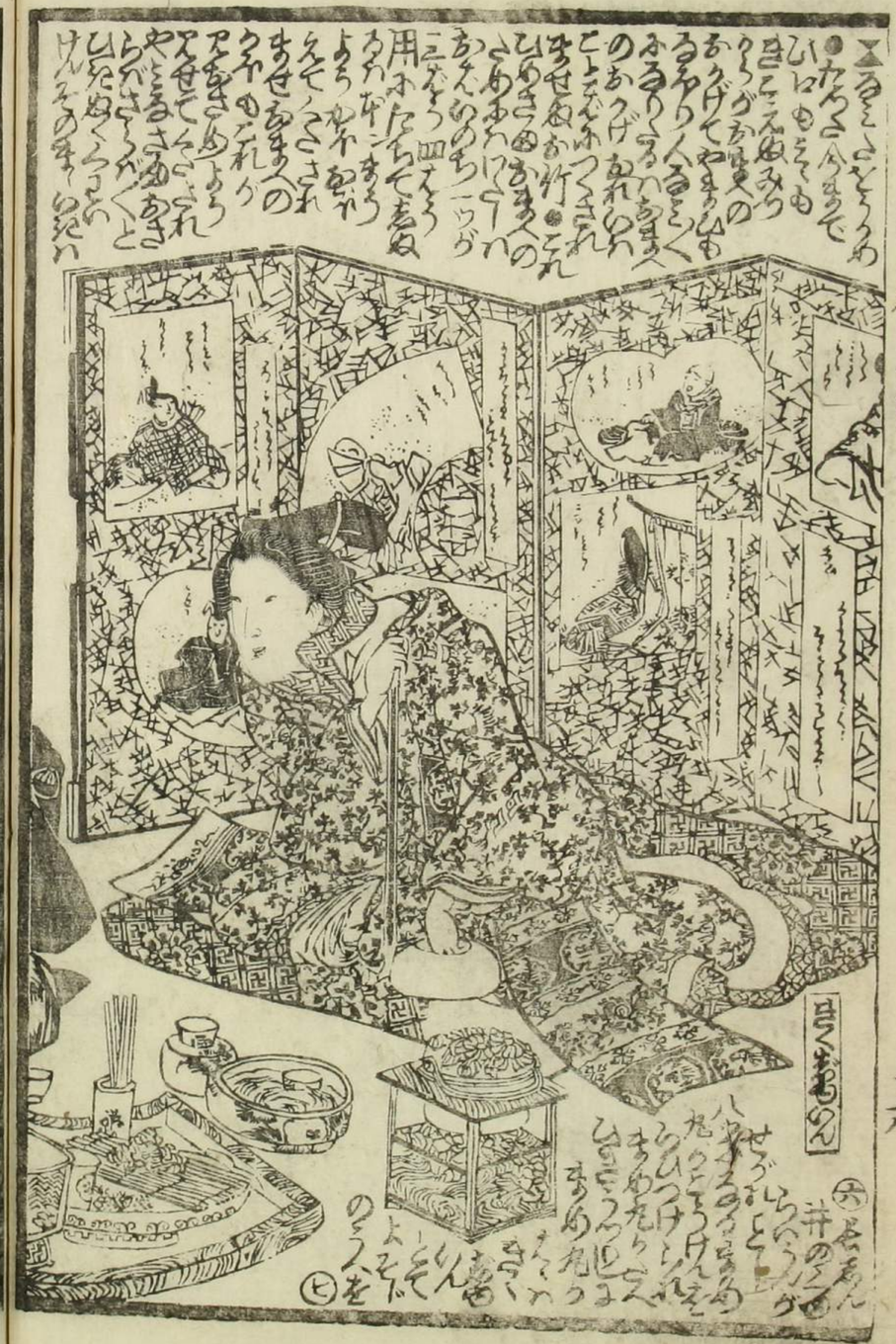
たろうる
げんぞう

かつらのまへ
こちやのめ

たろつる
お竹

ろうのまへ
たろうも
四の巻

三の巻
ごん平

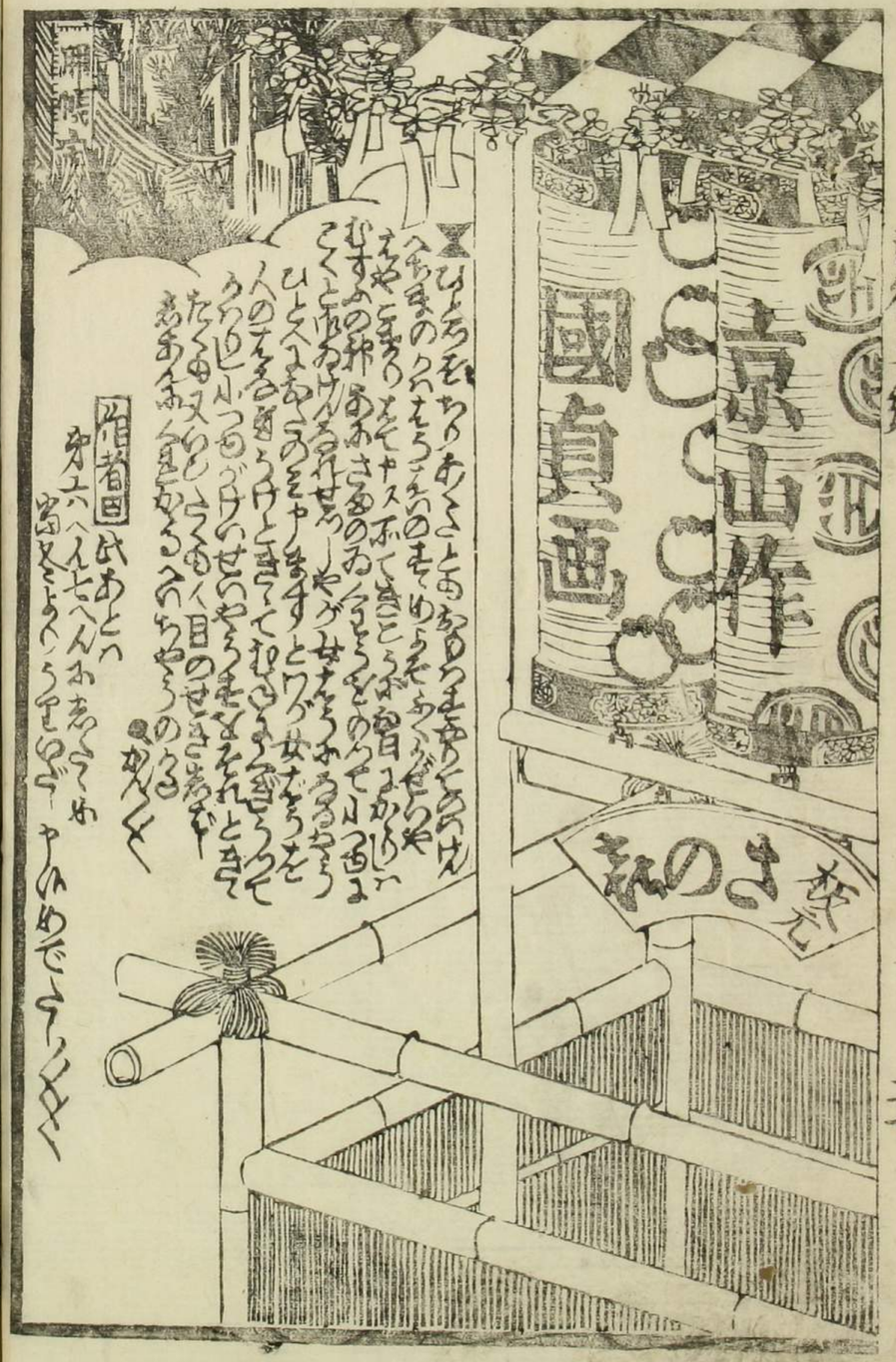


きくまつ

ろ生
小つま

たま吉

小つ西
ろく吉



ひとりをちのあくとのあるひとをもつ
へまのくれたるこのもめらそ
えやをるのとそやスボてきとうぶ
むすめの形あるさるのゐくとをの
くとかあけるれせろしやゲ女たち
ひとくまあるのをヤまずとワゲ女たちを
人のをるをるけときてをひらをそ
ろらしいるゲけのせのやろをそれとき
たるもの又ひとるゐ目のせさまで
あるふくをるへのちやうのる
かくく

階者曰 氏あとの
第六へんをふあ
るくとうとをゲ
ゃのめでさくく

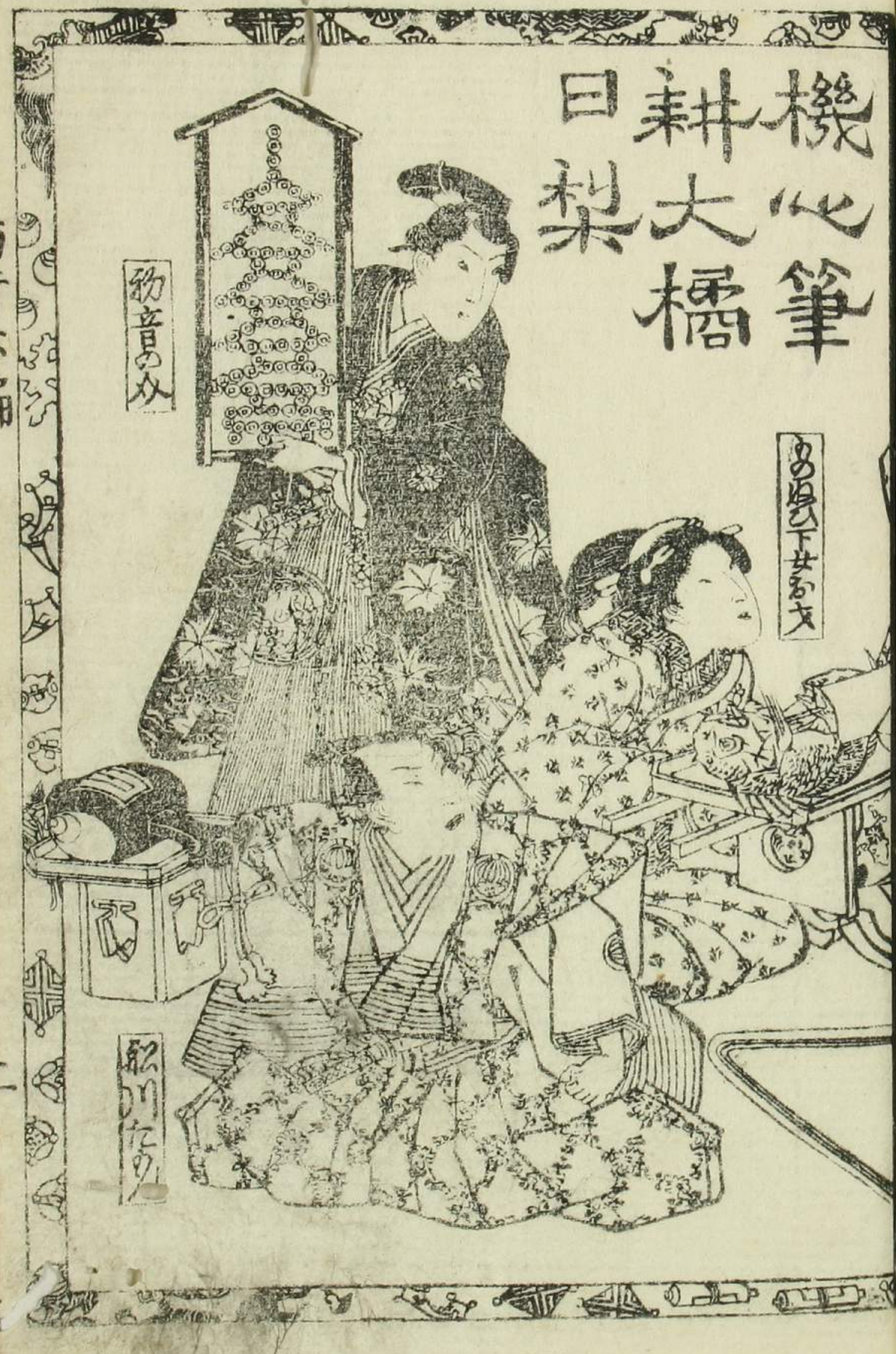
繪圖見西行六編紀

机上ふ空楮を啓て意ふ随て句を為し句積て文を紀し事編て編をなし編成て冊をなす其句ハ卑俗其文ハ虚妄其編ハ陋拙其冊ハ稗史なり一本の價僅二緡ふ不出其購し易を以て流傳最廣く国として不到所なし国としていまだ所なを以て作者の名随て走る其走也犬の川端を走るが如し犬も歩ハ人望ふあるを嗟乎可恥哉

天保辛丑孟春 京山人題 ㊀東

山東菴京山作
香蝶樓國貞画

菊壽
豆九


機心筆
耕大橘
日梨
物音の仆

第三 堪忍の蒙草

天明のころ心学とのゝ
ものあるひとの
へふるるものをみて
ちりくこう者くあるときこえせける男
むかくのひらうとも五おやうのちり
こちらをさとりかいろひをやもそ
ぶ者をうふるもあかうけり
もの者くのせんせのあ不刻を
をつたりくの二字のかんゆを
とれら五あれねをきをけん比あの
世のことをもぎるかんゆ五あとゆあるを
よくこるそりく人あ不「かんゆのるかんゆが
かんゆくうをうかんゆするかんゆ」
とれいうく人の者りうるおえくゆの
二字いたくあのぶとあむりく
ゆうあんあらせるものゆうちふ
るうもこるとあ
うんゆうありゆあふ
かんゆんせきれゝ
ぶんりびまくは
あるりとつあ
あゝ人の
すとうりの
風のこうり
るるのん
たてきし
てあふとこう町人い帳合
ゆうあくばーとうすくゆん
あふひをせまうとこのあもびとこの

三 ゆうろ
ひとりのとこちの
ちわ人目のせきとふ
ぎひきれまよあれども
ゆびとこちありてかを
ゆうあのゆうきゆうらだり
ゆうふとすゝひひろ
水のろうさ
まくの川を三

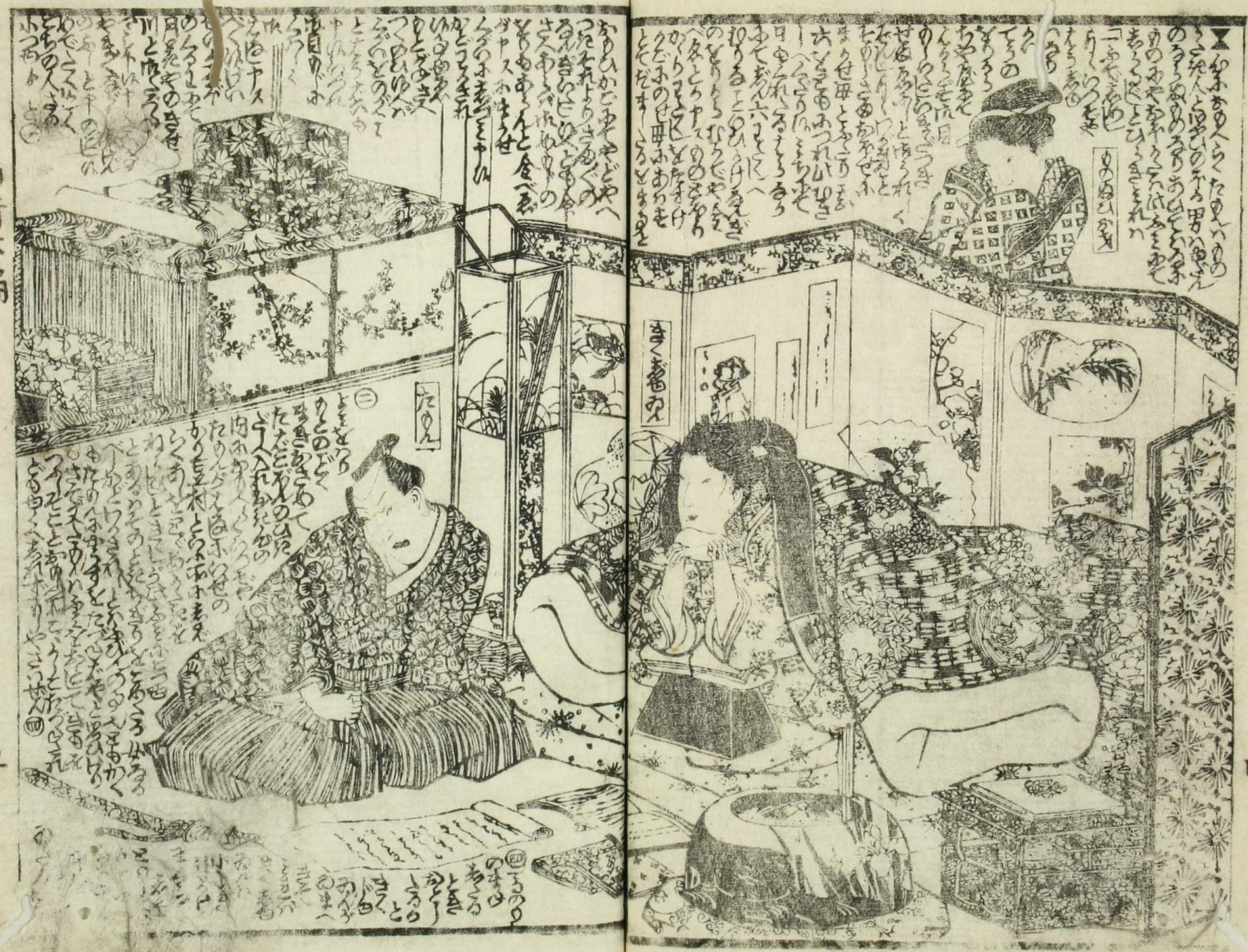
四 りうこう色ものりあるひあ
ゆりるもありまるひあ
る男のふちゆんきり
ものあらをこゆまくとこうこの
ちめこうみとまるくゆあらこう
あひこまるくゆあらこう
をかんゆ女さるのるけ
とちふまこうひくこう
されびはまこうひを
よくかんゆ
まる人い
色のもこ
ひを五

あれがやのとれがかひくこのワるまくとかんゆ
まをくこえあのぶさるゆるつひゆあんぶのゆうさ
つるこあゆのあるりの水ゆんも人の物とるうこと
すあるとこうり○さて又男も女も分をこ

六 カイ丸ダ
ちよこれて
ちまちまた
心とりの

豆丸

豆九ゞ母



たもん
きせ川

才三
ねや
の
百あ

忠大
たゝん

おりて
さ甘川

第四月花やのきりーさー
きせ川
忠七

やりて
たのん

京山作
國貞画
たぬ
西行六編上之巻

西行六編下
京山

第二ちゃうけすると代金ハ
いくらとやきそこそとうひ
けくらまこそのうち月見ものの
まくらのなかつくへけれいあり
らまのえのきも
川とさそうはせのの
おまの月見やのるの
いるまの七百あ
るく紙のきまそこ
とんくさまとまくと
ちまくもあるしの
はやまくふあるくとも
やのきあくふもも
あれけあるそのの
てのくらあるあまもの
えん百あつくさ
とひきくえきもの
をれかれくのやこも
めくきうるもんる
あまくえあくまあ
まするこれけるへ
人くのむこやめかと
くこをまつて百あで
かくふつきもの
ひくくらけまもの
あけのをそゆく百あの

三百かあーかとてこ
つくこのの松月見を
ものくるこ

ものとうもそれかれろたれど
と思ふ山石るぐさまくのの
けくらいえんのたろあやそ
のやごとあれハかどつしの
こくうるわるくうしろくまくろ
そよとのそれてあるーハまく
あ。あやりそのちまーやぐ
あけまのせくの百あでるを
くつくくこのあくこれこくろの
をきそくふすーまれてこくしなと
。あくこのあーやこくりまもん

第二ちゃうけまのつちのえさき

きをこれいかたくりけくきて
あるやもあくれをたんあいかをふ
つくこやくちくなのくこやせえく
やとあさあーいくるやーものとく
こくりくまとよくこくきくるくち
ゑくあくこしくるの日もれて
こくのこくきくきくせなくくかく
せ山ふゆんなきせなくくくかく
たくらんとそまくふくくくまこ
たくるかきくのくたくへくくまこ
のくるれてくるべたくだくるく
いくのせくとまくくくこくまくふ
くれけるがあるひつくくまく
なけんの年をくくあくて
十二年の㊀

第三
第四
あしよん

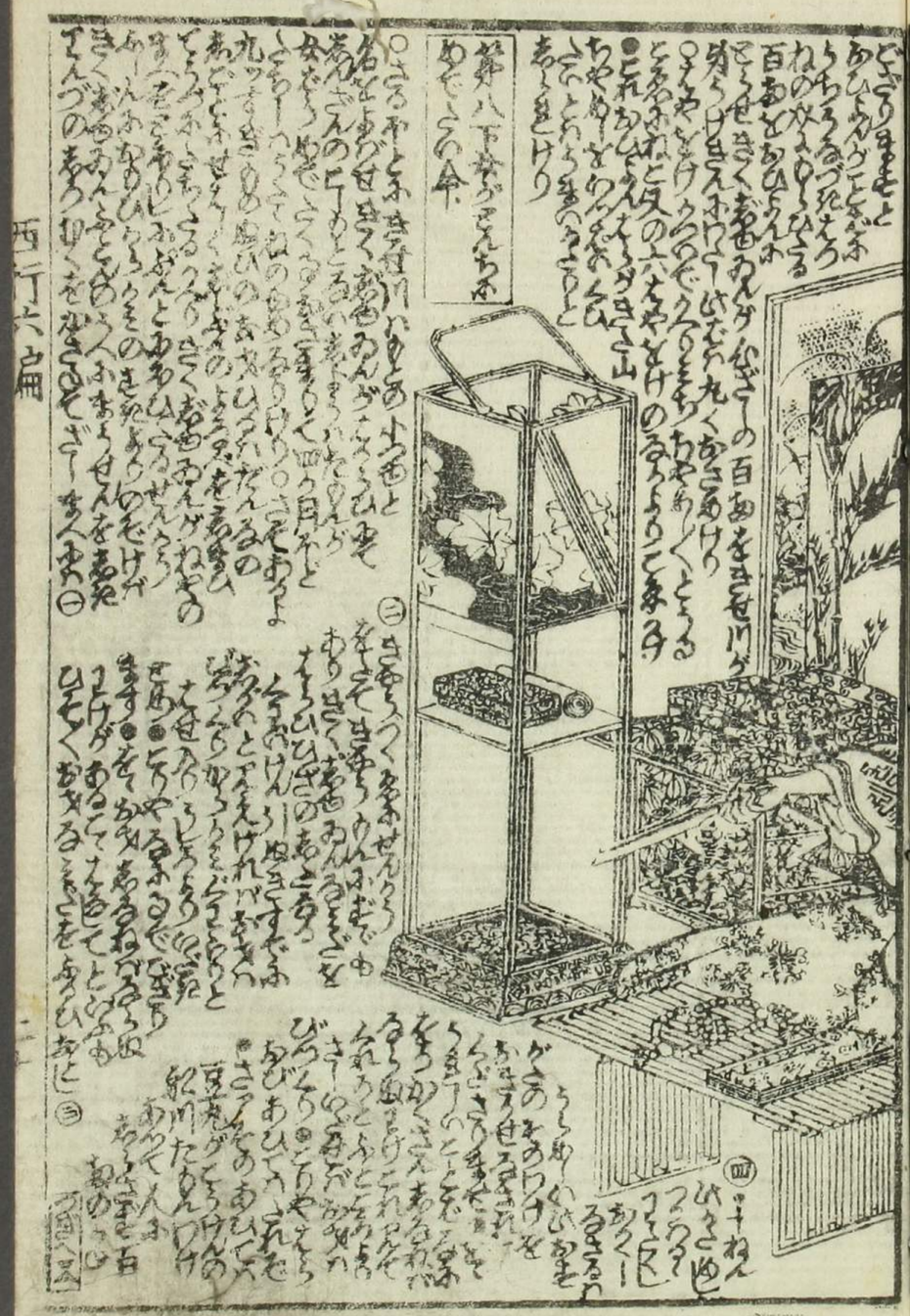
きくがわ

きせ川
なると
三の巻へ
四の巻へ

二の巻へ
あさぐら
せんぐら

かひとん
ねこ

ねと又の六
おひとうん



第八下ぐさのちかめでたしの傘

弘化四年丁未春新版目録

夫婦図 桜の瀬 **江戸見西行** 初篇 七編迄 出来

歌川国貞画

山東庵京山作

墨川亭雪麿作

春色梅暦 色くらべ **釣花佳恋三月** 四冊

溪斎英泉画

楽亭西馬作

前太平記 **義経記** 安城 全五冊 出来

歌川国芳画

楽亭西馬作

同 **八編九編** 近刻 初篇

一陽斎豊国画

山東庵京山作

幾度郎 **琴聲美人録** 初篇 二篇

一陽斎豊国画

山東庵京山作

同三編 駿馬桜島内裏 四冊

歌川国芳画

楽亭西馬作

教訓乳母草紙 四篇 五篇

一陽斎豊国画

山東庵京山作

同三編 念力弓勢誉 四冊

歌川国芳画

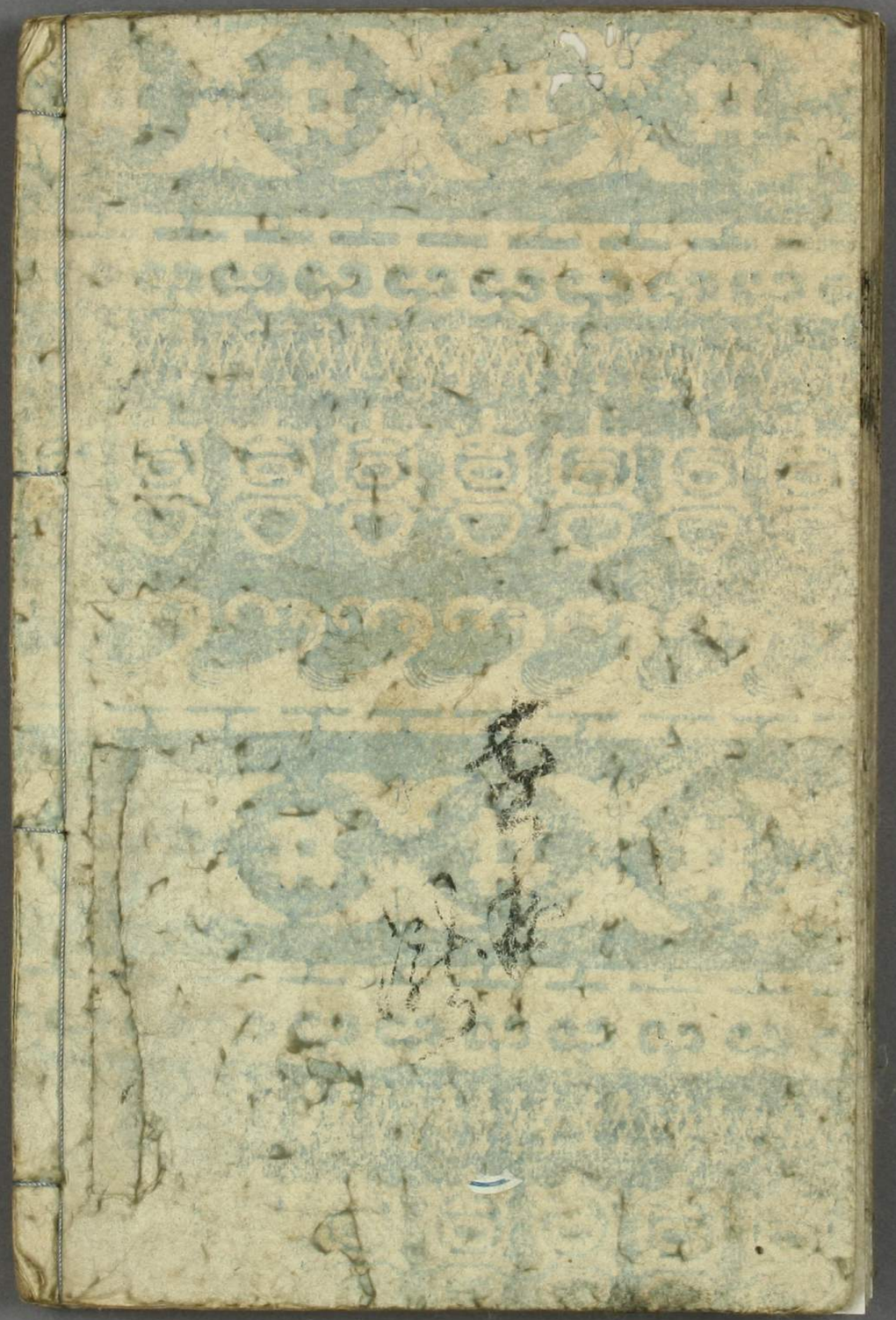
のやせ病とよもぎの煙 **鎮火五龍圓** 阪次

東都芝神明前三嶋町角

佐野屋喜兵衛板

絵図見西行六編終

京山作

国芳画

▲江戸京山作 新ざ二丁目 京でんみせのさとえの 其拙 新えをもとくする 妙やくとく あらた 一包一文メト ▲男女老 やくやくたちをかぞへ 今の世丹一文五文 まゝ二文メト たちむかうちけ合 たちむかうこのちがきま あり ▲十二味くすり あらひときわしたち えんず一ろくを まろくそ一文用て えんずを玉のごとく 一包百卅二せん ▲極上さあろの 雲の上六十四せん ▲そうあろのせんーや ろ五十六せん ようくれて めでたしくく